

教育研究業績書

2024年 5月 1日

氏名 早坂 聡子

研究分野	研究内容のキーワード	
1. 教育学	幼児教育・保育 保育者教育	
2. 保育学	家庭支援 保育者支援 感情的実践	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		特記事項なし
2 作成した教科書, 教材		特記事項なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特記事項なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) 実習生の受け入れ	短大年15回程度 大学年15回程度	○養成校付属幼稚園として ・ 幼児教育保育学科 (短大)、子ども心理専攻 (大学)、臨床心理専攻 (大学)、心理学科 (大学院) 実習受け入れ ・ 卒業論文研究、修士論文研究協力の受け入れ
(2) 家庭教育・家庭支援	平成24年～平成30年	○保護者、教師が言葉を交わし、互いに心を開き、話しやすい環境づくりへの取り組みとして ・ 年5回の保護者講話 (子育てと絵本の会) の実施 ・ 年60号ほどの園長だよりの発行 ・ 個別の保護者相談業務 (随時)
(3) 特別支援	随時	・ 特別支援に関わる、専門機関、療育機関との連絡調整 ・ 幼児教育センターとの連携、カンファレンス ・ 保護者面談、就学相談、個別相談 ・ 小学校訪問 (特別支援学級見学、カンファレンス等) ・ 卒園児の引継ぎ ・ 卒園後の保護者相談受け入れ
(4) 札幌市市立幼稚園連合会 新規採用教員研修会講師 (実技・理論編)	平成18年7月27日	○保育の活動と5領域とを照らし合わせ、それぞれの活動の中で、総合的に関連し合っている各領域のねらいや具体的方法論の講義、実践 (遊び)、協議、反省記録。終了後の記述を通して教育要領の学び直しへ
(5) 北海道私立幼稚園連合会 中堅教員研修会講師 (理論実践研修 I) 「幼児の健康と安全」	平成19年8月13日	・ 子どもたちの生活を支える安全な環境について ・ 遊びの環境構成と安全確保 ・ 参加者による協議、コーディネート
(6) 北海道私立幼稚園連合会 中堅教員研修会講師	平成19年12月26日	○「家族について保護者対応のあれこれ」(話題提供) ・ 家庭支援、子育て相談、保護者対応など、様々な実践事例を提供しそれらを基にグループ協議 ・ 具体的な対応事例について
(7) 札幌市私立幼稚園連合会 新規採用教員研修会講師	平成20年8月13日	○理論・実践研修 I 幼児が生活する場の環境構成について留意すべき点
(8) 北海道教育委員会 幼稚園教育園長等指導者会議講師	平成26年～30年各年8月計5回	○新任の園長対象の研修「幼稚園における学校評価」 実践例を基に講義、参加者との協議など 「幼稚園における学校評価」 実践例を基に講義、参加者との協議など

事 項	年月日	概 要
(9) 北海道教育委員会 10年経験者研修会講師	平成26年～28 年各年8月計3 回	○10年以上経験者を対象とした研修会 「幼稚園における学校評価」 実践例を基に講義、参加者との協議など 「幼稚園における学校評価」 実践例を基に講義、参加者との協議など
(10) 札幌市私立幼稚園連合会 新規採用教員研修会講師	平成29年1月16 日	○新規採用で一年が終わろうとしている年度末へ向け、課題点 や悩みを自らがみつめ直し今後へ活かしていけるよう、協議 や振り返り、発表(コーディネート)
(11) 国際ソロプチミスト札幌 Sクラブとソロプチミストの 集い講師	令和4年11月12 日	○キャリアサポート講師「人との関わりから学べる事—絵本を 通して—」と題し、ボランティア活動を行っている高校生へ 講義、演習
(12) 札幌龍谷高校～探究DAY 出前授業講師	令和5年3月16 日	○高校生を対象に「絵本が教えてくれること」と題し、人との 関わりに求められる他者の想いを想像する力を育てるため には、どのような心が必要なのか、絵本の世界を通して感じ 取ることができるようワークショップを中心に講義、発表等 を実施
(13) 北海道稚津幼稚園連合会・札幌 市私立幼稚園連合会 教育研究大会公開保育 助言	令和5年9月29 日	○公開保育テーマ「教師同士のやりとりを大切に～遊びと環境 構成について」をもとに、公開保育並びに実践発表、参加 者による研究協議に対する助言
(14) 私立保育園連盟 札幌市西区 保育士研修会 講師	令和5年11月16 日	○研修テーマ「心を感じ取る発達支援・特別支援・保護者支援 ～ 時には頑張る自分の心も抱きしめてあげませんか～」対人援 助職としての保育者の感情的実践や感情管理、援助者として の姿勢について、絵本の読み聞かせを交えた講義
5 その他		特記事項なし
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年月日	概 要
1 資格, 免許 保母資格	昭和62年3月20 日	第2353号(昭和45年2月7日厚生省告示収児第72号指定) (昭和45年2月7日厚生省告示収児第72号指定)
幼稚園教諭二級普通免許	昭和62年3月20 日	昭六二幼二普第老産参七八号
幼稚園教諭一種免許	平成15年1月28 日	平14幼一種 第0015号
保育心理士資格	平成21年12月 20日	大谷保育協会 第0971号
社会福祉士資格	令和5年4月4日	第277116号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) 札幌市私立幼稚園連合会清田 区研究委員長	平成18年4月～ 平成20年3月	区内各園の研究委員と会議、打ち合わせを行い、区内教員の資 質向上を目指しサークル研修、講師による研修会などの企画、 運営、反省、記録(年4回程度実施)
(2) 札幌市私立幼稚園連合会研究 副委員長	平成19年4月～ 平成20年3月	札幌市各区代表の研究委員長を取りまとめ、教員の資質向上を 目指し研修会の企画、運営、反省、記録、提案を行う。
(3) 北海道私立幼稚園連合会 公開保育研究会分科会ポスタ ー発表	平成19年10月5 日	現場から家庭支援・母親支援を考える (相談事例から見る家庭支援の現状と課題)

事 項	年月日	概 要
(4) 北海道私立幼稚園連合会並び札幌市私立幼稚園連合会公開保育研究会	平成19年10月5日	テーマ「子どもが力を発揮するカリキュラムづくり」～園内研修、学び続ける教師を支える試み～
(5) 北海道私立幼稚園連合会並び札幌市私立幼稚園連合会公開保育研究会	平成28年10月	クラスの保育公開分科会、協議ポスター発表 テーマ「命の大切さ」「思いやりの心」を育む保育とは 分科会・実践発表、参加者との協議、発表
(6) 札幌市私立幼稚園連合会 振興委員	平成29年4月～平成30年3月	札幌市私立幼稚園の振興運営に関する業務 幼保小連絡推進協議会代表
(7) 札幌市私立幼稚園連合会清田区研究委員長	平成29年4月～平成31年3月	区内各園の研究委員と会議、打ち合わせを行い、区内教員の資質向上を目指しサークル研修、講師による研修会などの企画、運営、反省、記録（年4回程度実施）
(8) 全国保育士養成協議会 北海道ブロック研究チーム研修会実践発表	平成29年7月15日	テーマ「絵本から広がる遊びの豊かさ・楽しさ」 ・保育活動における読み聞かせ活動の実践報告 ・保護者講話（子育てと絵本の会）の実践報告
(9) 豊平区清田区合同主任研修会運営	平成29年12月6日	豊平清田区の主任教諭を対象にした講演会、協議交流会の企画、運営
(10) 特別支援教育研修会運営	平成29年12月	特別支援学級 授業公開・交流研修会企画、運営、司会 小学校（札幌協）、幼児教育センター、札幌幼共催
(11) 豊平区清田区合同主任研修会運営	平成30年11月	豊平清田区の主任教諭を対象にした講演会、協議交流会の企画、運営
(12) 社会福祉法人元氣会新川コグマ保育園 評議員	令和4年5月25日～	法人運営に関する基本ルールや体制の決定、役員等の専任・解任など、法人運営の監督
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学位論文) 1. 保育現場に求められる家庭支援の現状と課題—支え合い共に育ち合う家庭支援を目指して— (修士論文)	単	平成31年3月	星槎大学大学院 教育学研究科教育学専攻 修士論文（54頁）	先行研究と幼稚園現場での実践経験を基に、保育の現場に求められている家庭支援の実情を整理し、保育者が家庭支援を担うためには、どのような専門性や姿勢が必要とされているのかを明らかにすることを目的とする。保育者は日常的に感情的実践を重ねており、①子どもとの交流における保育者の感情管理、②保育者同士の感情の共有、③保護者に対する共感が重要であることが明らかになった。また、寄り添いの姿勢で家庭支援に気持ちを向ける保育者のストレスや不安には様々な人との関係性が大きく影響している。保育者の感情的実践という観点からその内容や課題点を見つめることも重要である。実践においては、保育者の感情管理、子どもの心に寄り添う力、同僚と協働する力が必要である点も明らかになった。個々の保育者を支える保育者支援、地域との連携が今後の課題である。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(査読付き論文) 1. 保育者支援の必要性について一求められる専門性と感情的実践に着目して— (査読付)	単	令和3年3月	豊岡短期大学論集第17号pp. 245-254	<p>子育て世帯を取り巻く社会状況を受け、保育者に求められる課題や業務内容は更に増大している。保育者たちは、関わる様々な人に気持ちを向け、想いを寄せその職務にあたっているが、保育者の早期離職やバーンアウトといった問題も解決策を見出せないままの課題として存在している。保育者に求められている専門性や保育の質向上へ向けた取り組みを、①同時改訂で見直され追加された項目、②現任者研修の分野別項目、③保育者養成課程の見直し項目の3点から整理する。合わせて保育者の感情的実践に着目し、保育者が日常的に行っている業務においては①保育者自身が自らの感情をコントロールし業務に向かっている場面①支援対象者の感情の変化を感じ取り、相手の状況に応じ感情を操作する場面、②保育者同士が互いの感情の変化を感じ取り、必要に応じて支え合う場面、以上の3点において感情的管理を行っており、退職理由の上位に人間関係があげられる実状の中では、保育者が抱える負担感や早期離職問題を考える上でも注視すべき点ではないだろうか。求められる職務が増大し、人との関わりの中で負担感が増している中、「保育者支援」という視点で保育者を支える環境について改めて検討する必要があるのではないだろうか。</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(査読付き論文) 2. 対人援助職としての保育者を考える—保育者支援の必要性— (査読付)	単	令和6年3月	豊岡短期大学論集第20号	<p>対人援助職としての保育者に焦点をあて、保育者たちの心と身体を守り、実践を積み重ねていけるよう「保育者支援」「自己理解」という視点から、保育者に求められる業務内容の背景や実情を整理し、それに伴う「感情」「心」について先行研究と実践を交え整理する。</p> <p>子育て家庭を取り巻く状況を受け、子育て支援が保育職に求められるようになった背景、保育者が抱える負担感や対人援助職としての子育て支援に関する業務内容を明らかにする。保育者が生き生きと実践を積み重ねていくために、客観的に自らを知り、感情・行動を制御する自己覚知の必要性と支援者支援としての心のケアの必要性について、現場実践を交え考察する。</p> <p>保育者が実践者として現場に立ち続け、子ども、子育て家庭を支える専門職としての経験を積み重ねていけるよう、相談援助の理論や方法と実践との照らし合わせ、自己覚知を行いながら、ソーシャルワークに関する学びを積み重ねていく必要があるのではないだろうか。</p>
(その他) 1. 幼稚園教育の内容・方法に対する点検・評価の研究 (三年継続研究) 2. 生きる力の基本を育てる幼稚園教育課程の研究 (二年継続研究) 3. 子どもが力を発揮するカリキュラムづくり—一人ひとりの研究テーマに基づいて— (二年継続研究) 4. 現場から家庭支援・母親支援を考える 5. 現場から家庭支援・母親支援を考える—教育要領の改訂から見えてくるもの— 6. 言葉に想いをのせて語り合える教師集団を目指して①	共 共 単 単 共 (監修) 共 (監修)	平成15年3月平成16年3月平成17年3月 平成18年3月平成19年3月平成20年3月平成21年3月 平成20年3月 平成21年3月 平成25年3月	札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告 札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告 札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告 札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告 札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告 札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の点検、評価を行うため、個々の教師が、日々の振り返りを行い、記録を残し精査する。 ・幼稚園教育の本質を求めてカリキュラム研究から幼小連携の実践へ一人ひとりの研究テーマに基づいて ・個のカリキュラム、活動のカリキュラム、学級のカリキュラム ・現場実践を通しての家庭支援の実情を分析し、母親の心に寄り添う支援の方法を探る ・現場保育者に求められる保護者対応の実情の分析 ・保育者に求められている支援者としての専門性と新教育要領での位置づけについて

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) 7. 言葉に想いをのせて語り合える教師集団を目指して②—心の育ちを目指す教育現場の実践—	共 (監修)	平成26年3月	札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告	教育目標から見た保育を振り返る ・異年齢の学び合い ・教師の役割 個人研究・共同研究 監修 ・心の育ちを目指す教育現場の実践 ・保護者との連携を深めるために
8. 言葉に想いをのせて語り合える教師集団を目指して③—環境構成から考える教師の役割とは—	共 (監修)	平成27年3月	札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告	個人研究・共同研究 監修 「危機管理」「食育」「愛着と心の育ちの関係性」「保育現場で教師が育ち合うこと」「保育者の専門性」「命の大切さ」「困り感教師間の連携で見えてきたもの」 同じ場所で同じ教育目標、同じ教育課程のもと保育にあたっていても、個々の保育者の経験値、年齢、自身の育ってきた環境などの違いから、課題や悩みは大きな差が生じる。言葉を交わし、想いの共有となる定期的なコーチングの時間を設けることで、自らの課題点を整理し、継続的な実践に移すことできた。またプレゼンテーションの時間を確保することも、教師間の理解、課題意識の共有へと繋がった。
9. 言葉に想いをのせて語り合える教師集団を目指して④—一人ひとりの気づきの中で支え合う—	共 (監修)	平成28年3月	札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告	個人研究・共同研究 監修 「危機管理」「食育」「愛着と心の育ちの関係性」「保育現場で教師が育ち合うこと」「保育者の専門性」「命の大切さ」 「困り感—教師間のやりとりで見えてきたもの」 同じ場所で同じ教育目標、同じ教育課程のもと保育にあたっていても、個々の保育者の経験値、年齢、自身の育ってきた環境などの違いから、課題や悩みは大きな差が生じる。言葉を交わし、想いの共有となる定期的なコーチングの時間を設けることで、自らの課題点を整理し、継続的な実践に移すことできた。またプレゼンテーションの時間を確保することも、教師間の理解、課題意識の共有へと繋がった。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他)</p> <p>10. 言葉に想いをのせて語り合える教師集団を目指して⑤「命の大切さ」「思いやりの心」を育む保育とは――</p>	<p>共 (監修)</p>	<p>平成29年3月</p>	<p>札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告</p>	<p>個人研究・共同研究 昨年度からの継続研究とし、昨年度課題にあがった点、明らかになった点を再度見直し整理する研究となった。 公開保育研究では、サブタイトルの「命の大切さ」「思いやりの心」を育む保育と題し、取り組んだ。一年間の学年ごとの計画を精査し、具体的な教育活動の中にどのように意味づけられるのかを探った。「地域・働く人との出会い」「自然との関わりからの継続、花の種の収穫、どんぐりのクッキー作り、栗の染物、はつか大根クッキング」「雑巾作り」など身の回りの」様々なものや人、自然を意識的に活動の中で展開していった。長期的な活動計画の作成に取り組んだことも、保育の継続性を個々の教師が意識する貴重な機会となった。</p>
<p>11. 一人ひとりを大切に する本園らしい保育 を目指して①「教育 要領改訂、教育課程 の見直しを念頭に――</p>	<p>共 (監修)</p>	<p>平成30年3月</p>	<p>札幌国際大学附属幼稚園実践研究報告</p>	<p>個人研究・共同研究 監修 定期的なコーチング、プレゼンテーションの実施。 「絵本から広がる遊びの豊かさ・楽しさ研修会の実践発表の記録」「本園が大切にしている絵本への想い・取り組み～5領域の視点を踏まえて～」 「クラスの活動記録」「保護者講話～子育ての隣りに絵本を」を集録 「自らの保育を振り返り俯瞰する機会を」と題し、園内研修会を実施。園内研修のあり方、保育のPDCAサイクルの整理、自園らしさとはなど、昨年度までの5年間の研究を整理し、共有する機会となった。講師を招いて更に一人ひとりを大切にすることはどのようなことなのかを考え直した。</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他)</p> <p>12. 一人ひとりを大切に する本園らしい保育を 目指して②—保育者が 大切にすべき想いと は—</p>	共	平成31年3月	札幌国際大学附属幼稚園 実践研究報告	<p>個人研究・共同研究</p> <p>「正義感とは何か」「子どもの想いを大切に する保育」「保育の振り返りの大切さ— 子どもたちの笑顔が輝く保育とは—」 「特別支援の取り組みについて」</p> <p>特別な配慮が必要な幼児への指導につ いて、個別の指導計画の見直し、幼 児教育センター指導員との相談を 経て、卒園後も継続的に見守り支 援可能な方法を探る実践記録とな った。障害のあるなしに関わらず、 サポートが必要な子ども、保育者、 保護者への支援という考え方を共 有し、次年度以降へ繋げていける ような方法を検討。</p> <p>講師を招いて、「保育の質の向上」の 取り組みとしてと題したビデオカン ファレンスによる園内研修会を実 施。保育者がクラス集団を見つめる 場合は、どうしても全体を見てしま いがちである。個を追ったビデオか らは、一人ひとりの子どもが人と関 わり、何かを感じ取り、自ら考え行 動している様子を知ることができ た。全体を見る眼、個々を見る眼の 両方が求められることを再認識す る。</p> <p>二年間継続の研究を通し、集団の育 ちと個の育ち、集団の見取りと個の 見取り、保育者の評価反省、振り返 り、園内研修の重要性、同僚性など、 子どもの自己発揮と発達、保育者の 専門性の向上に向けた多くの気づき が生まれた。</p>